



がん医療に必要なサポート



菊井津多子

人と人を遠ざけるコロナ禍で、がん患者さんはひとりで不安を抱えておられないだろうか。乳がん再発と診断された頃を思い出します。

私は37歳で乳がんになり、4年目に再発しました。その時のショックは言葉に例えられないくらいに衝撃でした。命へ続く蜘蛛の糸をプツンと切れ、奈落の底へ落とされ「もう終わる」と希望を失った私を救ってくれたのが、ピア(同じ立場の人)サポートでした。7月7日七夕、「あけ



6月6日FMおおつのラジオ収録の写真です。乳がんについて30分話しました

と湖西が、通院の方向で開かれました。オンライン参加も出来るハイブリッド形式にトライ!「同じがんの方と会えてよかった」「いろんなことが話せた」「また参加

きくい・つたこ 大津市在住 がんサバイバー。乳がん患者会「あけほの滋賀」代表。滋賀県がん患者団体連絡協議会会長。滋賀県がん教育スピーカーバンク責任者。

ぼのハウス(乳がん患者の集い)に再発転移で治療中の方が集いました。辛い思いを乗り越え、体にダメージはあるが、皆さん、とにかく元気で明るくやさしい。「がん患者への偏見はまだまだ

たりと、あつという間に時間は過ぎました。「集いは重い感じなのかな」と心配だった方も、「皆さん強くて明るくて気持ちが軽くなりました」「このころの中に降った雨が流れて、晴

れ間が見えました」と笑顔に。抱えていた重い荷物をその場に下ろして、「ボチボチ生きていこうね。またね」と、にっこり顔で別れました。

次の週、高島市民病院の「がん患者サロン」ほつ

二つの集いに参加して、ピアサポートはやはりがん医療に必要な支援だと改めて感じました。ひとりで悩まず、ピアと出会い、「このころのマスク」を外して次の一歩を歩み出してほしいと思います。

これから開催されるピアサポートです。コロナ感染が第7波に入りまして、参加は感染状況を見て判断してください。

◇乳がん患者さんの集い
「AYA世代限定の集い」(8月12日・金)「あけほのハウス」(9月1